

下北教育事務所主管事業へ参加や御協力をいただき、ありがとうございます。5月から7月に実施した事業の概要を紹介いたします。

初任者研修示範授業研修

○目的 初任者研修対象教員に対して、先輩教員による示範授業を通して、授業の在り方について研修させ、教員としての実践的指導力の向上を図る。

◆中学校:5月22日(木) むつ市立田名部中学校

田名部中学校において、各教科の授業と道徳科の授業を参観させていただき、参観後はそれぞれの研究協議を行いました。初任者からは、授業で学んだことや普段の授業で悩んでいることが積極的に話されていました。

校長先生の御講話では、「授業及びその実践について」と題し、お話いただきました。「生徒にとって、その授業は一生に1回」「教師は『努力すること』を教える人」といった言葉は多くの初任者の心に響きました。



♪受講者の声♪

研究協議では、単元の指導計画をつくることにより、授業のレベルが上がるという助言をいただき、積極的に取り組んでいきたいと考えました。また、賑やかなクラスと静かなクラスとで授業の集中のさせ方や進め方に別の工夫が必要であると学んだため、クラスの実態を把握し生徒に応じた授業をしていきたいと思います。

◆小学校:6月26日(木) むつ市立大平小学校

大平小学校において、一般授業(全学級)及び集中授業(3学年・国語、4学年・道徳)を参観させていただきました。授業参観後、国語科、道徳科それぞれの研究協議を行いました。グループごとに指導の工夫や授業づくりにおける悩みについて積極的に協議し、授業者からの助言に熱心に耳を傾けていました。

校長先生の御講話では、自身の教員経験を基に初任者への温かい励ましの言葉をいただきました。



♪受講者の声♪

二つの集中授業に共通していたことは、どちらも学級の児童の実態に合わせた工夫を行い、的確で分かりやすい発問や指示をしていたことです。また、教師自身が楽しんで教材研究をしていたこともとても印象に残りました。示範授業研修を通して、完璧な授業を目指すのではなく、失敗してもそこから学び、自分自身が楽しんで授業に臨んでいきたいと感じました。

複式学級担任者研修会

令和7年6月30日(月) むつ市立関根小学校

○目的 複式学級担任者に対して複式学級の学習指導及び学級経営等について研修を行うことにより、指導力の向上を図る。

○提案授業 5・6学年算数科 単元名 5年「合同な図形」 6年「場合の数」



児童の実態に応じてじっくりと支援できるよう、同時間接指導の時間を多く取る工夫、自力解決の時間にそれぞれがどこに取り組んでいるのかがわかるようネームプレートを動かす工夫等をしていました。研究協議では、参加者それぞれが自校の児童の実態を思い浮かべながら意見を出し合い、複式授業の充実に向けて学び合いました。現在、複式指導をしていない参加者からも、複式指導の実態を見ることができ、自力解決をさせるための工夫が参考になったという声が聞かれました。

小・中学校生徒指導研究協議会兼安心できる学校づくり研修会

令和7年7月2日(水) むつ来さまい館

○目的 (1)不登校児童生徒へのアセスメントに基づく個に応じた具体的な支援についての理解を深め、社会的自立を目指した学校の組織的対応力及び教員の資質の向上を図る。
(2)ハートフルリーダーを中心としたいじめ防止対策の活性化といじめ問題への対応についての理解を深め、学校の組織的対応力及び教員の指導力の向上を図る。

○内容 ・実践発表「教育支援事業を活用した不登校支援について」
東通村立東通中学校 教諭
・講義・演習「いじめの理解・いじめ防止のための取組と対応」
上越教育大学大学院 教授

☆いじめ・不登校について：青森県の状況や取組

青森県及び下北管内では、いじめの認知件数や不登校児童生徒数が増加しています。このような現状から、県ではいじめの未然防止に向けた「安心できる学校づくり推進事業」や「校内教育支援センター推進事業」等を推進しています。児童生徒一人一人に対して、それぞれの状況に応じた支援をし、安心して学校生活を送ることができるようになっていくことが必要です。

☆不登校支援：問題の本質を理解する

東通村立東通中学校教諭から、東通中学校での不登校支援の実践について発表していただきました。生徒の問題に対応していく上で大切なスタンスや、「チーム学校」について、校内教育支援センターの運営に取り組むことによって得られた成果や課題についてのお話は、今後の自分自身や学校の取組の参考になったとの感想が多く寄せられました。

☆いじめの理解・いじめ防止のための取組や対応

上越教育大学大学院 教授から、「法令理解」「いじめ事例への対応」「早期発見のポイントと未然防止のために」の3部構成で講義・演習をしていただきました。事例を基に、いじめの認知やその後の対応の仕方について参加者同士で協議する演習を通して、初期対応や日常の備えの重要性を学ぶことができました。様々な視点からいじめの対応について考える機会となりました。



小・中学校道徳教育研究協議会（1日目）

令和7年7月24日（木） むつ来さまい館

○目的 小学校及び中学校における道徳教育の充実徹底を期するため、道徳教育実施上の諸問題を研究協議し、その解明を図り、教員の実践的指導力の向上を図るとともに、保護者や地域住民との交流を深め、相互の理解を図ることにより、学校及び地域社会における道徳教育の一層の充実に資する。

○内容 講義：「道徳科における指導と評価について」

講師：文部科学省 初等中等教育局教育課程課 教科調査官
国立教育政策研究所 教育課程研究センター研究開発部
教育課程調査官



昨年度に引き続き、調査官を講師としてお招きしました。今年度は、道徳科における評価の在り方や指導方法の工夫などについて講義していただきました。道徳科の授業において、主題名・中心発問・ねらいに一貫性をもたせること、「自己を見つめる時間」「多面的・多角的に考える時間」「自己の生き方について考える時間」を授業の中でしっかりと確保すること等、実践例を示しながら具体的にお話ししていただきました。各校で講義内容を共有し、2学期からの実践に生かしていただきたいと思えます。

♪受講者の声♪

- 生徒の変容を見取る場面や仕掛け、発問を教師がきちんと用意しているか等、お話を聴き、「やってみよう」という実践意欲が向上した先生方がたくさんいたと思います。
- 実践的なお話がたくさんあり、2学期からの実践に生かせそうです。特にねらいと中心発問のずれについては、改善する必要があると感じました。
- 「生徒の思考を予想し、それに沿った発問や考える必然性、切実感のある発問、自由な思考を促す発問、物事を多面的に考えたりする発問を心掛けることが大切である」というお話が印象に残りました。

★オンライン質問箱 ～おしえてSKJ～ 今年度も御活用いただいております！

活用例①：今年度、県大会での実践発表があるため、今後の指導に生かすことができる研修会があれば教えてほしい。

活用例②：初任者研修のことについて教えてほしい。

申込はこちら！



参考資料を御活用ください

道徳教育アーカイブ

・実践事例（動画）の紹介等



「へき地・複式教育
ハンドブック
【事例編】」
(青森県教育委員会)



これからのへき地・複式・
小規模校教育 ※動画
(独立行政法人教職員支援機構)

